

事例2 広島大学（国公立）

1. 大学概要

設立主体	国公立・私立
所在地（本部）	広島県東広島市鏡山 1-3-2
大学設置年、創立年	設置：1949年
学部・キャンパス	文系・理系（学部数：11学部、3キャンパス） <東広島キャンパス> 総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、生物生産学部、 <霞キャンパス> 医学部、歯学部、薬学部 <東千田キャンパス> 法学部夜間主コース、経済学部夜間主コース
学生数（学部）	10,959名（2014年5月1日現在）

（2015年2月18日現在）

2. キャリア教育への取組状況

（1）キャリア教育についての取組方針、導入の背景等

①理念、取組方針

- ・ 広島大学では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育を行い、「総合研究大学」としての専門的知識・技術の習得とあいまって国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。
- ・ 特に学生一人ひとりに応じたきめ細かい学習サポートの実現と、卒業生の質の確保及び教育の質の向上をめざし「到達目標型教育プログラム HiPROSPECTS®」という独自の教育システムを実施している。
- ・ 教育を通して得た知識を社会で活かし、どのように生きていくかを考える機会を、入学後の早い時期から学生が享受できるよう様々な形態のキャリア教育を実施している。
- ・ 理系の大学院進学率が高く、より専門的な知識を得る大学院生のためにも、大学院でのキャリア教育も充実を目指している。
- ・ 「社会人基礎力」の養成を目指して、地域でのボランティア体験や、インターンシップへの参加を積極的に実施しており、2011年の東日本大震災や2014年8月に広島市内で発生した土砂災害に対する復興ボランティアは延べ2000人程度となっている。
- ・ 課外活動を大学教育の一環として考え、準正課化し、推奨している。
- ・ 大学構内一斉清掃（広大クリーンプロジェクト）や学生との意見交換会、リーダーズセミナーなどを行い規範意識向上のための取組を行っている。

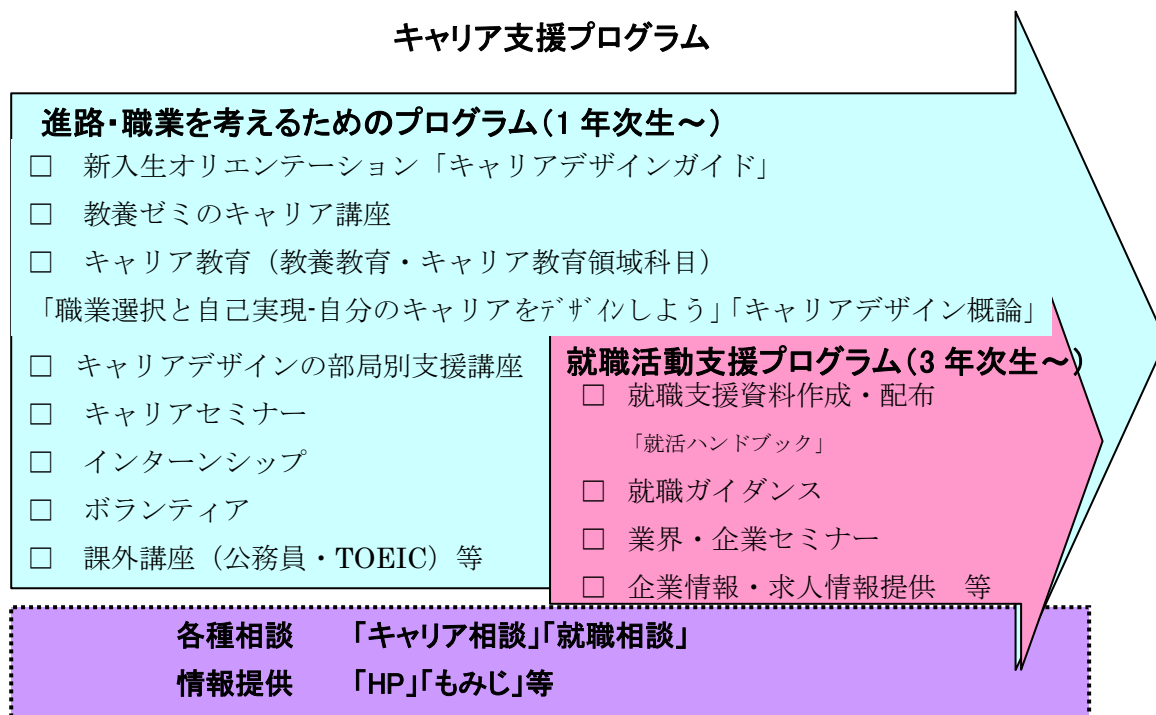
②導入経緯

- ・ 1993年頃から、いわゆる就職氷河期にあたる時期に突入し、広島大学でも学部卒業生の就職率の低下が問題視されていた。また、1995年に医学部・歯学部を除く全学部が、周りを山々に囲まれた閑静な新キャンパス（東広島市）に移設を完了し、都市圏へのアクセスの難しさが指摘された。さらに、就職協定の廃止や採用方法の多様化等、大学の就職支援体制の見直しが必要となった。
- ・ 学長のリーダーシップのもと、社会のニーズに沿った優秀な学生を社会に送り出すため一貫した理念に基づく教育改革の必要性が指摘され、1998年5月に、全国の国立大学に先駆けて、全学的な就職支援組織として「学生就職センター」を開設した。
- ・ 当初より民間企業経験者を専任教授として迎え、教養教育として学生の職業意識啓発のための講義を実施していた。
- ・ 2004年の法人化を契機に、入学から将来に向けての学生のキャリアデザインを総合的に支援するため、「キャリアセンター」に改組・拡充した。現在の正式名称は「グローバルキャリアデザインセンター」である。

（2）当該大学におけるキャリア教育の特徴（全体像）

- ・ グローバルキャリアデザインセンターでは、全学的なキャリア教育を実施している。その一方で、11学部を擁する総合大学として、各学部独自のキャリア教育に取り組んでいる。
- ・ 全学部・全学年に開かれている教養教育の中に「キャリア教育領域」を設け、「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」「キャリアデザイン概論」「ベンチャービジネス論」等の講座を開設している。これらの他に、各学部にて、キャリアに関する科目を20程度開設している。大学院向けのキャリアに関する科目も開設している。
- ・ 広島大学では、大学生活を通してどう生きるかを考えてほしいという願いから、1年次生から活用できる「進路・職業を考えるためのプログラム」と、卒業の前年次からの「就職活動支援プログラム」を企画・実施している。さらに、キャリア相談やWebサイトによる情報提供も積極的に行っている。
- ・ 入学式直後のオリエンテーションにおいてほとんどの学部で「キャリアガイダンス」を実施し、できるだけ早く自分の進路や将来について考えるよう促している。
- ・ センターの運営については、開設当初より学内の学部教員も委員とする「運営委員会」（2009年より「センター会議」）を設置している。2014年からはすべての学部から委員を出し、センターと学部の連携の強化、学部間での情報共有を目的とし、本学のキャリア教育及びキャリア支援のさらなる充実を目指している。
- ・ 実践的キャリア教育を実施するという観点から、専任教員は民間企業経験者を登用しており、社会の実態を学生に伝えることができる人材が担ってきた。

図表 広島大学 キャリア支援プログラム図



(出所) 広島大学 グローバルキャリアデザインセンターより

3. 特色あるキャリア教育プログラムについて

(1) 教養教育科目「キャリア教育領域」の概要

①目的・位置づけ

- ・ 全学部・全学年に開かれている教養教育の中に「キャリア教育領域」を設け「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」「キャリアデザイン概論」「ベンチャービジネス論」等を開講している。

②概要（構成）

- ・ キャリア教育領域の科目の内、グローバルキャリアデザインセンターで所管する科目の概要は下表のとおりである。

科目名（テーマ）	配当年次	時間数	単位数	クラス数	概要
職業選択と自己実現-自分のキャリアをデザインしよう-	全学年・春/秋	15週	2	3	キャリアデザインを通して、大学での学びや大学生活の過ごし方を考える
キャリアデザイン概論	全学年・春/秋	15週	2	3	社会で必要なスキルや能力の開発/「学ぶ」ことと「働く」こと関係性の理解

- ・ 上表の他に、学部生向け集中講義として、「実践フロンティアプログラム」、「地域社会探検プロジェクト—ボランティアを体験してみよう—」、大学院生向け集中講義として

「人文社会系キャリアデザインⅠ・Ⅱ」、「理工系キャリアデザイン1・2」、「ストレスマネジメント」を開設している。

1) 科目の内容

- ・ 「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」は、キャリアデザインを通して、大学での学びや大学生活の過ごし方を考えるものである。
- ・ 「キャリアデザイン概論」は、社会で必要なスキルや能力を開発するとともに、「学ぶ」ことと「働く」こと関係性を考えることを目指している。

2) 実施体制

- ・ 「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」は、東広島キャンパスで前期・後期各1授業、東千田キャンパスで前期1授業が開設されている。すべて同じ教員が担当している。
- ・ キャリアデザイン概論は、東広島キャンパスで前期・後期各1授業、東千田キャンパスで後期1授業が開設されている。前期と後期で異なる教員が計2名で担当している。

3) 対象者・受講者について

- ・ 全学年・全学部が開かれている授業ではあるが「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」及び「キャリアデザイン概論」は1・2年生の受講が8割を占める。2014年度、2科目6クラスの受講生数は、約500名であった。

③授業の内容

- ・ ここでは、「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」についての詳細を記載する。

1) アウトライン・概要

名称	「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」
開講学部	全学部
正課・非正課の別	正課（全学部で・一部学部で） ・ 非正課
必修・選択の別	必修 ・ 選択
配当年次・学期	全学年・前期／後期
時間数	15週
単位数	2単位
履修者数	約300名（2014年度）
クラス数	3クラス（前期2クラス、後期1クラス）
担当者・人数	専任教員（実1名）
実施主体	教学・キャリアセンター

2) 授業の内容や取組の詳細

- ・ 授業の目標は大きく2点ある。
 1. 「自己理解」と「社会環境理解」を通して、自分自身のキャリアをデザインする。
 2. グループワークを通して、コミュニケーション力や課題発見解決力、チームワーク力等の「社会人基礎力」を養成する。
- ・ 「自己理解」に向けて2つのアプローチ方法を採用している。心理学的アプローチでは簡単なチェックリストの実施、社会学的アプローチではグループワークを通して、対人関係の中での自己に気づかせる方法を採用している。「社会環境理解」に向けては、ビデオ視聴、社会人基礎力に関する講義、フリーターについての話し合い等を実施している。
- ・ **Project-Based-Learning (PBL)** として、5人程度のグループを作り、内定を得ている学部4年生や大学院修士2年生へのインタビューを実施することを課している。まず、グループの一人ひとりが知り合いの先輩に話を聞き、その情報をグループで共有し、そこからさらに1人の先輩にフォーカスして、再インタビューを行う。インタビューの内容は、進路先、進路先決定の理由、進路先でやりたいこと、学生時代に力を入れたこと、学生時代にすべきことなど。こうした深堀を通して、働くとはどういうことか、学生から社会人になるとはどういうことか等について自分のこととして考えることを促すことを狙いとしている。
- ・ 「私の履歴書」の講演者は、大学教員の繋がりで著名人を招いている。また、若手の卒業生の講話も設定している。講話前には、講師情報の収集や、どのような質問をしたいかを考えさせ、講話後に感想を書かせている。
- ・ 成績評価は、試験は実施せず、毎授業時のリアクションペーパー (A5 サイズ)、グループ発表、最終レポートに基づく。リアクションペーパーに対しては教員側からコメントを付けてフィードバックを行っている。
- ・ 本授業の効果測定としては、次の2つを実施している。1点目は、「社会人基礎力」に関するチェックリストを2回目と最終の授業で実施し、ポイントの変化を把握すること。2点目は、初回の授業で各学生が記述した目標をどの程度実施できたか、また各自が進路及び将来についてどの程度具体的に考え取り組みを始められるかに着目することである。
- ・ 第1回の授業時に、学生に対して、本授業の履修目的や本授業に求めるものを書かせる。それによって焦点を置く部分など、クラスにより微調整を行っている。
- ・ 全学部・全学年向けに開講しているため、普段かかわることの少ない他学部・他学年の学生とグループワークを行うことによって、異なる考え方に触れたり、刺激を受けたりすることも本授業の効果といえる。
- ・ 教育学部の学生の中には、将来自らが教員になった際に、キャリア教育の授業を実施する上での参考とするために受講している学生も一定数いる。テキストの中にはキャリア

理論を一覧としてまとめて紹介している。

- ・ 全 15 回の授業概要（タイトル）は以下の通り。

1. イントロダクション
- <自己理解>
2. 自分自身を知る 1 心理学的アプローチ
 3. 自分自身を知る 1 社会的アプローチ
 4. 先輩へのインタビュー
- <社会環境理解>
5. ライフプラン 1 「恋愛」と「結婚」
 6. フリーター・ニート あなたはどうか考える
 7. ライフプラン 2 「仕事・職業」社会が求める人材像
 8. ワークライフバランスとジェンダー視点
 9. 先輩へのインタビュー グループ発表
- <キャリアデザインの実践>
10. キャリアデザイン理論の概要
 11. コミュニケーションと自己表現力
 12. 社会で活躍する人の話を聞くー私の履歴書ー 1
 13. 社会で活躍する人の話を聞くー私の履歴書ー 2
 14. 自分自身のキャリアデザイン
 15. まとめ

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ 「私の履歴書」の授業回で、著名人を講演者として招聘。また、若手の先輩の講話の回も設けている。
- ・ 内定を得ている学部 4 年生や大学院修士 2 年生へのインタビューを実施。進路先、進路先決定の理由、進路先でやりたいこと、学生時代に力を入れたこと、学生時代にすべきことなどを聞く。
- ・ 最も身近な社会人である学生自身の保護者へのインタビューも取り入れている。

4) 授業で取り入れているツール

○既存のもの

- ・ テキスト：森玲子,2010 『キャリアデザインノート 第四版』（広島大学キャリアセンター発行）
- ・ （以前はキャリアマトリクスも使用していた）

○独自開発のもの

- ・ チェックリスト
- ・ エゴグラム、ジョハリの窓、ホランドの 6 角形モデルなどを取り入れた教材

4. 課題・今後の方針

(1) 総論

- ・ 総合大学として、すべての学部で一律のキャリア教育に取り組む事は現実的ではないのが実状である。しかしながら、学生個々人のキャリア発達を考えた場合、必要とするキャリア教育や支援がいつでもどこでも受けられる状況を創ることが求められているといえる。
- ・ 大学から社会への移行（トランジション）という視点から、在学中の地域ボランティアやインターンシップへの参画をさらに積極的に進めることが求められている。そのことが、地域の活性化に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる人材育成につながると考えられる
- ・ 各学部で各専門について深く学習することは、それらの知識や経験を社会でどう活かすかを考えるきっかけともなる。そのような取組は、各学部において充分広がってきており、教養教育におけるキャリア教育科目の受講のみが、学生に必要なものとはいえなくなってきている。学生個々人が必要に応じ、自分の専攻と生き方を結び付けて考えることが必要ではないかと感じている。

(2) その他

- ・ キャリア教育は、講義・演習・グループワークといった全体での取組にとどまらず、学生一人ひとりの抱える課題に向き合うことが求められている。オフィスアワーを利用して個別面談を実施したり、コメントで語りかけたりなどの取組をさらに充実させたい。
- ・ 広島大学では、今後特に大学院生のキャリア教育・キャリア支援に注力したいと考えている。より専門的な知識を身に付けた学生たちが、それらの能力を活かした進路選択ができるよう、インターンシップのさらなる充実にも取り組む必要があると考える。総合大学の強みを活かして、未だ活用・連携しきれていない力を発掘して、厚みのある教育・支援体制を築いていきたい。